

# 残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(93号)  
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号  
TEL / 0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp  
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部一  
●代表/阿部一 ●副代表/菊池せい子

## 信仰: 新しく生まれる特権

- **クリスマスおめでとうございます。** みなさんにとて何回目のクリスマスでしょうか? 毎年、この日を迎える、この1年の歩みの日々において、神より賜った憐れみと恵みを数え、感謝に満たされておられると思います。
- 何と多くの人が、「新しく生まれ変わりたい」と思っているでしょうか。その思いの多くは、自分を取り巻いている環境全てが自分の欲しているものと願っています。
- しかし、現実はその夢とは正反対で、努力しても報いられず、自分の思いのままにならない家庭や職場の人間関係、さらに人生の先が見えない不安に悩まされています。
- ペテロは、信仰ゆえに迫害され、現在のトルコの各地に離散し、困窮のただ中にあった信徒(クリスチャン)たちを励ますために手紙を書きました。
- その中で「あなた方は、新しく生まれる特権(リビングバイブル: I ペテロ1/3)が与えられた者だ」と書いています。特権とは、ある身分、資格のある者だけが持ち得る権利です。
- では、私たちクリスチャンはどのような特権が与えられているのでしょうか。「あなた方は神の家族の一員で、お金では買えない永遠のいのちの希望が約束されており、信仰によって神の御力によって守られている者だ。」とペテロは言います。
- その特権は、神の計り知れない憐れみによって私たち既にが神の子とされており、さらにキリストが死者から復活した事実によって保証されていると述べ、励ましています。
- この「生まれ変わり」は、私たちの精進や努力では得られるものではなく、神の側から値しない私たちに差し出された憐れみと恵みを、感謝を持って受け入れる者にだけ与えられるものです。
- 日本人は、ここで躊躇します。何もしないで信じるだけで新しくされることなどはあり得ないと。「この世が自分の知恵によって神を知ることが出来ないのは神の知恵であり、むしろ宣教のことばの愚かさを通して信じる者を救おうと定められた」(コリント1/21)と聖書に記されています。
- 自分の愚かさを認め、神の憐れみを信じた多くの人たちを、その身分や貧富の差なく「新しく生まれた者」とされました。そして、現実のこの世で、その多くの人は神と人を愛し、他人の幸せのために自らを献げる者となりました。
- マザー・テレサやリンカーン、シュパイツァー、賀川豊彦など大きな働きをして名を知られた人だけでなく、多くの無名の新しくされた人たちが神と人に仕えています。
- この新しくされる道備えをするために、キリストはこの世に来てくださったのです。クリスマスがそのことに感謝し、新しくされたことを喜ぶ日となりますように。

### 先月の多くの恵みから

- ① 11/8の礼拝は、大震災後に南三陸で「良き業・宣証」の理念で、支援活動を続けておられる聖協団西仙台教会牧師中澤竜生師にメッセージのご奉仕をして頂きました。説教題「大海に投じる一石」の通り、低迷する日本の宣教活動に聖書から一石を投じる新しいパラダイムでの挑戦に大きな恵みを受けました。
- ② フロリダ在住のS姉妹が、高齢のお母さんの介護に来石している期間私たちの群で信仰生活を送られていました。その信仰をもったお母さんが、11/3に97歳で召天されました。

● <今冬の灯油支援開始>復興住宅建設の遅れで5度目の冬を仮設住宅de生活をする被災者に皆さんの愛の灯油が届いています。感謝!



今やあなたがたは、あらゆる恵みと祝福を手にしたのです。(コリント1/7)

た。姉妹とご兄弟の意向で「家族葬」で葬儀を行い、阿部に執り行って欲しいとの強い要請がありました。祈りを持って準備し、納棺から火葬・葬儀・納骨までを行わせて頂きました。地域の必要に神が用いて下さったことに感謝しました。

③ 皆さんのが献げて下さった仮設限定灯油献金をもって、11/19に、仮設の申請者にこの冬第1回目の灯油支援を開始しました。昨年までと同様に月2回の支援ができるようにと祈っています。続けてご支援下さい。

④ 11/18に、今年の南三陸に続き、来年3月11日に石巻で実施する「宮城南三陸3.11追悼記念会」の第4回目の実行委員会を私たちの教会で行なうことが出来ました。十分な準備して臨めるようにお祈り下さい。

⑤ 11/14に、坂戸市からブラジル人教会の時田師ご夫妻と姉妹が訪問下さいました。先生方は2ヶ月間ブラジルを帰国されるとのことです。旅とご奉仕が祝されますように祈ります。

⑥ 11/16にCrash Japanの永井敏夫師と今年結婚されたお嬢さんのChamiとご主人のDavidが訪問下さい、励ましと祈りをして頂きました。お二人の女川でのお働きが祝されますように。

⑧ 12/3に「イザヤ58ネット」の中川信嗣師グループが継続して仮設訪問をして下さることになっております。

⑨ 11/5に、DRCnetの河師、安師のご協力で十字架の照明の修理をして頂き、再び地域に明るい主の光を届けています。

### ■ 今月、次の課題を祈つていただければ幸いです。

- ① 地域から求道者が起こされるように。群衆の証しのために。
- ② 5度目の寒い冬を仮設で迎える被災者のために。灯油支援購入資金が満たされるように。仮設を出られる家族のために。
- ③ 石巻 Ministries Networkでの各教会間の協力のために。

### 群の定期集会

・礼拝 (毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会 (毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・キルトを縫う会 (第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援 (地域の子どもの要望に応えて応援/木・土)	

### 信仰を詠う

#### そぞ 12月 注がれる恵み



阿部 八重子

引きこもる家族を抱え10年、更に震災後母親を亡くした孫娘のひきこもりを助けて下さっている日本社会福祉協会さんが、サポートステーション、NOTEへと携わりをして下さり農場の草取り・収穫作業・ボリ袋をつくる作業と一緒に動き始めた孫娘、応援支援して下さるすべての方々に私の胸は感謝の思いでふくみっぱなしです。

おぼつかぬ仕草で 草抜く娘を見つる

な  
祖父母撫でゆく北上の川。

サポステの青年の息吹きに包まれて

い  
ラベンダー容れる 小袋つくる。

おぼ  
この時を奇跡の恵みと思ゆつつ

ツリーに十字のリボンをつける

## 11月に来訪されたボランティア・チームと先生方および仮設支援と教会活動の様子



### アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

#### 外部信徒の証し——

#### 阿部夫妻との出会い-2

LB仙台愛子中央教会 阿部イサ

私たちが大学生時代にお世話になったご主人の奥様で、神の不思議な導きの中で互いが地理的にも近いところで生活するようになりました。神は、彼女の忠実な歩みに応え、終の棲家も用意して下さいました。そして、彼女は復活の主を信じ、ご主人との天国での再会を楽しみに信仰生活を送っておられます。

神の川は水で満ちています。

詩編65篇9節

高齢になっても、主と人に仕える働きを全力疾走している一(はじめ)さんにハラハラしながら、一緒に祈りながら教会活動を支えておられる奥様の秀子さんと次男の周君のためにも、私は毎日神の祝福と守りをお祈りしています。

私も80歳の高齢になりましたが、恵まれた日々を過ごさせて頂いています。仙台に移り、神学生の食事準備の働きをしていた時には、神学校の向かいの借家に住んでいました。ルーテル同胞教団では、その神学校の敷地内にお客様の宿泊の部屋とチャペル、そして身寄りのない高齢者用にワンルームを作りました。それは「召されるまで、礼拝できるように」とのビジョンを持って着工されたもので、他の教団では見られない画期的な「高齢者住宅付きチャペル」です。それは、神が本当に私のために用意して下さったようなもので、私がその入居者第1号です。バス・トイレ・キッチンが付いたワンルームですが、一人住まいには十分な広さです。神様は、人生の終わりに私を一番良い場所に置いて下さいました。

一さんは、よく私に言いました。「あなたは忠実な信仰者として歩み続けて、謙遜に仕えてきたから、神様からのプレゼントですよ。」と。高齢者の信仰者が増える中で、教団や教会がこのような場所を備えて下さることは、高齢者には大きな励ましになると実感しています。（「死に至るまで忠実でありなさい。」（黙示録2/10））

チャペルでの毎朝の祈り会、そして礼拝堂は敷地内にあるという恵まれた環境で、安心して教会活動をさせていただ

いています。

今、力を入れているのは子どもたちへの伝道です。伝道の書の12/1にあるように「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また『何の喜びもない』という年月が近づく前に。」。。です。老いて目で読むことができなくなったり、耳が遠くなつてみことばも聞けなくなる、そして歩行困難で教会の集会に出られなくなる時があるなどの実体験からの私が教えられている教訓です。

神学校と教会の敷地内にある建物ですから、毎週行われる礼拝や祈り会、婦人会などに出席される会員、それに日曜学校のこどもたちが、帰りに私の部屋を訪ねてくれます。その人たちと楽しい交わりのひとときを持つことができるのも素晴らしい恵みです。

また、神学校の先生方や神学校を来訪される他教会の牧師先生、兄弟姉妹ともお交わりできる幸いは、信仰者として大きな励ましとなります。

一さんが「家の教会」の責任を持たれ、さらに大震災の支援活動の奉仕をされる忙しくされてからは、会える機会は少なくなりましたが、いつも祈られていることを感じています。仙台にご用でついでになった時は、時々突然お出でになりびっくりします。そんな時、それまでのいろいろな生活での話をし、一緒に祈り合えるのは、とても嬉しいことです。そして、困ったときは、電話や手紙で相談でき、勇気づけられてまた喜んで神様と歩めます。信仰者と言えども、何十年も変わらない主にあるお交わりができることはそうありません。主人を通してつながれた神にある兄弟姉妹として交わりができ、互いに励まし合って信仰生活が送れるこの幸いを感謝しています。

このような恵まれた環境での生活は、何よりも主が立てて下さった信頼できる牧会者にみことばによって養われる幸いと兄姉の背後の祈りの支えと交わりがあつてのことです。本当に感謝です。

主人と天国で会える日のために「いつ召されても良いよう。」と心を備えながら、与えられた一日一日を周りの多くの人に支えられながらも、感謝して生きて参ります。

主を心から賛美しつつ。